

地方都市の住宅における今後の畳空間の方向性 —島根県松江市の場合—

正岡 さち*・小野 聡美**

Sachi MASAOKA and Satomi ONO
The Direction of Tatami Space in Rocal City Houses
—In Matsue-city, Shimane Pref.—

要 旨

畳空間の現状や畳空間に対する意識を知ることにより、より望まれる畳空間を探り、今後の畳空間の発展方向を検討することを目的として調査を行った。

- ①住宅における畳空間の設置率は高く、利用率も高いが、わずかではあるが畳空間を設置していない住宅もあった。
- ②畳空間は快適性の面で良いイメージがもたれていた。また、幅広い年代で伝統的なイメージがあるものの、若い世代程、「歴史的建造物」のイメージが強くなっていった。
- ③年齢別にみると、若い世代ほど「嫌い」「つくりたくない」「今後は一般住宅でつくられなくなっていく」と答える割合が高くなり、愛着がなくなってきており、今後は畳空間を必要と考えない人が増える可能性が考えられた。
- ④畳空間を日本文化として残していきたい人が多いものの、畳空間に愛着のない人ほど、残さなくてよいと考えている割合が高かった。
- ⑤空間デザインは、年齢の高い人や男性は伝統的な空間を、若い人や女性は洋室に近い雰囲気的空間を好んでいた。今後は住宅への畳空間の設置率は徐々に減っていき、内部デザインについては伝統的な畳空間が減り、現代住宅に合わせやすい洋室に近い空間が増えていくと予想される。また伝統的な空間は、今後は住宅以外の旅館や寺などといった場で残っていくものと考えられる。

【キーワード：畳空間、和室、住宅、デザイン、方向性】

I. 緒 言

現代では、生活の欧米化が進み、住宅においても洋室の割合が大半を占めるようになり、徐々に住宅における畳空間の数も減少してきている¹⁾。その結果、以前は住宅内に多くみられた畳空間の数が、現在では1室が主流になっており、畳空間を1室も設置しない住宅も現れるようになってきた。これは、松江市においても例外ではない。

また、畳空間が設置される位置も、独立した形で設置するのではなく、リビングの一角やリビングとの続き部屋にするタイプが増えてきている。

一方、内部のデザインも、従来からある床の間を設けた伝統と格式を備えたデザインに加えて、現代的なデザインも多くみられるようになり、現代の畳空間のスタイルは生活様式とともに多様化してきている。

これまで畳空間に関する研究は、伊東らによる「畳空間デザインに対する志向性の検討」²⁾や、沖田による「家族生活空間としての和室に関する研究」³⁾などが行われている。既往の研究では、伝統的な畳空間デザインを愛好する者が半数を占める一方で、現代性をとり入れた新しいデザインへの志向が存在することがわかっており、

全体傾向としては、男性より女性、高齢層より若年層、畳室の多い住宅で育った者より少ない住宅で育った者、町家住宅や農村住宅より集合住宅に住んでいる者、について現代的なデザインに対する志向がみられたという結果であった。また和室の必要性は、必要とする世帯が多いが、どちらとも言えないとする世帯もあり、今後の畳空間の方向としては畳空間のある住宅とない住宅に分かれるという意見が多かったという結果であった。

しかし、畳空間の詳細な内部デザインに焦点をあてた研究や、子どもを対象とした畳空間に関する研究はほとんどなされていないのが現状である。

そこで、畳空間の現状や畳空間に対する意識を知ることにより、より望まれる畳空間を探り、今後の畳空間の発展方向を検討することを目的として研究を行った。

II. 研究方法

調査方法は、質問紙によるアンケート留置自記法で行った。

調査対象は中学生以上の男女、また、参考として、外国人留学生も対象に加えた。配布回収数は、配布部数 695部、有効回収部数 612部、回収率は88%、調査期間は、

* 島根大学教育学部人間生活環境教育講座

** 元島根大学教育学部人間生活環境教育講座

2007年7月～12月である。調査内容は、対象者の普段の生活での畳空間の利用方法や畳空間のイメージ、また今後の畳空間に対する意識などについてである。

Ⅲ. 結果及び考察

(1)対象者の概要

対象者の概要と居住している住宅の特性を表1に示す。

表1 対象者の属性と住居住宅の特性

対象者の属性	一般：19.4%	大学生：16.5%
	高校生：36.3%	中学生：24.3%
	留学生：3.4%	
	男性：44.4%	女性：55.6%
	平均年齢：21.6歳	
居住している住宅の概要	一戸建て：75.3%	
	集合住宅：24.3%	
	平均築年数：25.3年	
	畳の部屋の数：平均2.98部屋	

(2)畳空間の利用実態

居住している住宅の畳空間の現状について表2に示す。

畳空間の有無については、「ある」と回答した者が9割強であった。また、利用度については「よく利用する」と「たまに利用する」の二つを合わせると約80%となり、利用率は高かった。

畳空間の利用方法については、普段は「家族みんなが集まる部屋」や「客間」「個人の部屋」として使われていることが多く、よく行われている生活行為については、「就寝」や「接客」、「家族との団らん」、「遊びや趣味」といった項目が多かった。

表2 居住している住宅の畳空間の現状

畳空間の有無	有 91.7%
	無 8.3%
利用度	よく利用する 63.2%
	たまに利用する 20.4%
	ほとんど利用しない 14.4%
	全く利用しない 2.0%
普段の利用法	家族みんなが集まる部屋、客間、個人の部屋
生活行為	就寝、接客、家族との団らん、遊び・趣味

(3)畳空間に対する好嫌

畳空間に対する好き嫌いについては、図1に示すように、「好き」と答えた人が全体で9割以上と、非常に多かった。しかし、これを年齢層別にみると、年代が下が

るにつれて「嫌い」と回答する割合が多くなっている。日本全体において、住宅における畳空間の設置数が減少してきていることを考えると、畳空間への愛着が若い層程薄れてきているのではないかと考えられる。

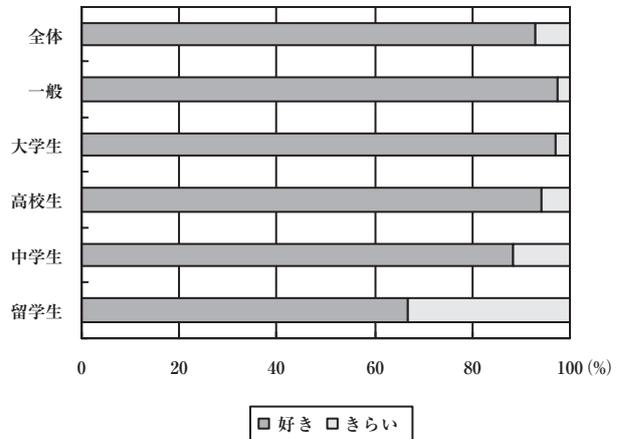


図1 畳空間に対する好嫌

(4)畳空間に対するイメージ

畳空間に対して抱いているイメージ22項目について、5段階SD法により評価してもらった。それをもとに、各項目の平均SD得点を算出した。全体的にみて、空間の快適性に関する項目で良いイメージを持っている傾向にあった。

それを年齢別に平均値プロフィールに表したのが図2である。〈伝統的な—現代的な〉では年齢別ではイメージの差がほとんどみられず、畳空間が幅広い世代で伝統的なものであると認識されていることが伺えた。

また、年齢別で特に特徴がみられた項目は〈一般的な家—歴史的建造物〉の項目で、中学生は畳空間に対して一般的な住宅のイメージよりも歴史的建造物のイメージの方が強く、畳空間に対してなじみが薄いことが理由ではないかと考えられる。

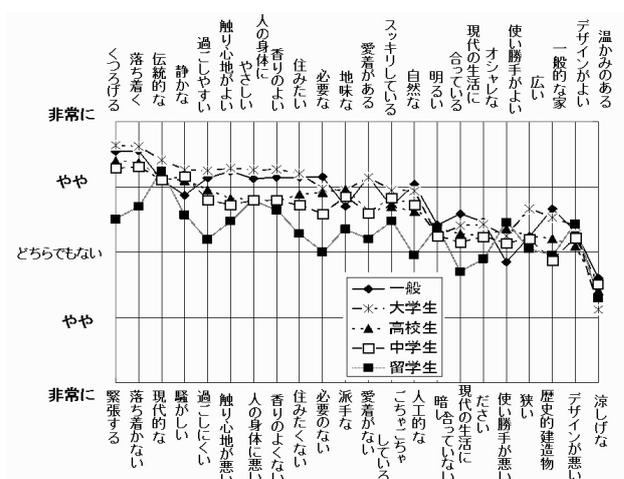


図2 畳空間に対するイメージ

(5)畳空間の設置希望

住宅を建てる場合の畳空間の設置希望について尋ねた

結果を図3に示す。畳空間を「つくりたい」と回答した割合は全体では9割を超え、畳空間設置希望は高かった。

しかし、年齢層別に見ると、好嫌の場合と同様、年代が下がるにつれて「つくりたくない」と回答する割合が増える傾向にあり、今後は畳空間を必要と感しない人が多くなる可能性があると考えられる。

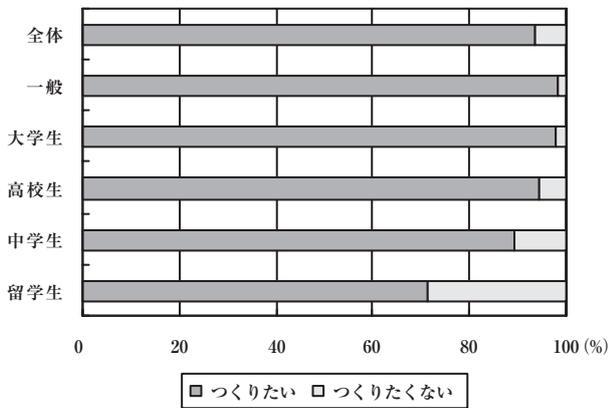


図3 畳空間の設置希望

そこで、畳空間の設置希望別の理由を尋ねたところ、「つくりたい」理由で多かったものは、「裸足で歩いたり、寝転がれるから」「畳が好きだから」「和風の感じが好きだから」といった項目で、畳そのものや空間の雰囲気、畳空間がくつろぎの場として利用できるといった点で高く評価されていた。一方、「つくりたくない」理由は、「洋風のインテリアに合わないから」「洋風の感じが好きだから」「現代の生活に合っていないから」といった項目が多く選ばれており、畳自体が嫌いというよりも、洋風の生活を志向していたり、畳が洋風の雰囲気に適さないといった点で畳空間が必要ないと考えていることが伺えた。

(6)住宅における今後の畳空間設置動向に対する意識

今後、一般住宅で畳空間がつくられていくかどうかを尋ねた結果を図4に示す。

全体では約8割が「つくられていくと思う」と回答した。しかし、年齢層別に見ると、年代が下がるほど「つくられなくなっていくと思う」と回答する割合が増えており、特に中学生に関しては、その傾向が顕著にみられた。

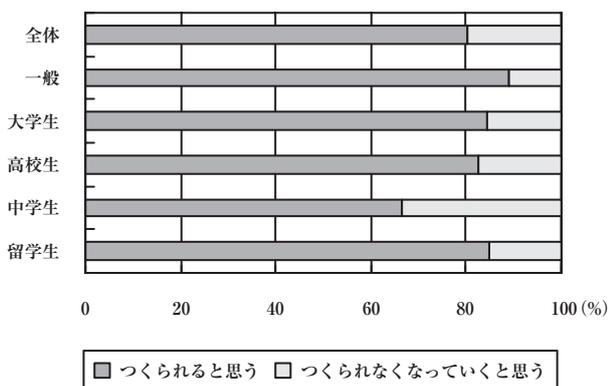


図4 住宅における今後の畳空間設置動向に対する意識

(7)日本文化としての畳空間の存続希望

次に、畳空間を日本文化として残していきたいかどうかを尋ねたところ、全体で約95%が「残していきたいと思う」と回答しており、ほとんどの人が畳空間の存続を希望する結果となった。

しかし、図5に示すように、住宅を建てる場合畳空間を設置したくないと考えている人に「残さなくてもいいと思う」割合が高かった。同様に、居住している住宅内に畳空間が「ない」人や、畳空間の利用頻度が低い人にもその割合が高く、畳空間に対してなじみの薄い人や否定的な意見をもった人は、畳空間に対して日本文化としての価値を見出していないと考えられる。

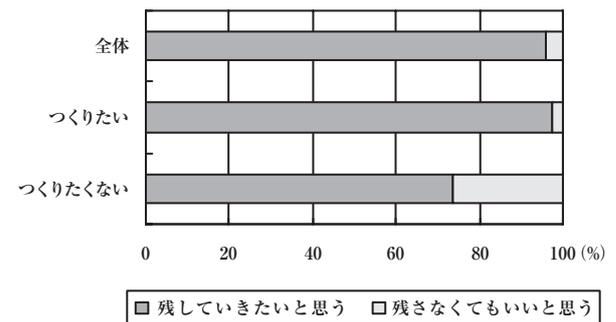


図5 日本文化としての畳空間の存続希望

(8)畳空間の内部デザインに対する志向

今後の畳空間の内部デザインがどうなっていくかを把握するために、30タイプのさまざまな畳空間の中から、「好きな畳空間」や「日本文化として残したいと思う畳空間」など、全部で8項目について、該当する空間を選択してもらった。

分析にあたっては、30枚では数が多く傾向を把握しにくいため、30タイプの畳空間を空間のタイプ別に5つのグループに分けた。ここに挙げたのは評価対象の一例である。

それぞれのグループの特徴は下記の通りである。

- 床飾りを持つ伝統的な書院風の空間
- 書院風 (a) 以外の民家風等の伝統的な空間
- 質素な床飾りをもつ空間
- 洋風のデザイン要素を取り入れた空間
- 床材は畳だがそれ以外は洋風のデザインを取り入れている洋室に近い空間



図6 畳空間の分類と評価対象例

① 自宅の畳空間に近い空間

自宅の畳空間に最も近いと思う空間を選択してもらった結果を図7に示す。年代の高い層では伝統的な書院風の空間が多く選ばれた。しかし、中学生に関しては洋風の要素を取り入れた空間や洋室に近い空間といった現代的な空間が選ばれる割合が増える傾向にあり、身近な畳空間像が変化していると考えられる。

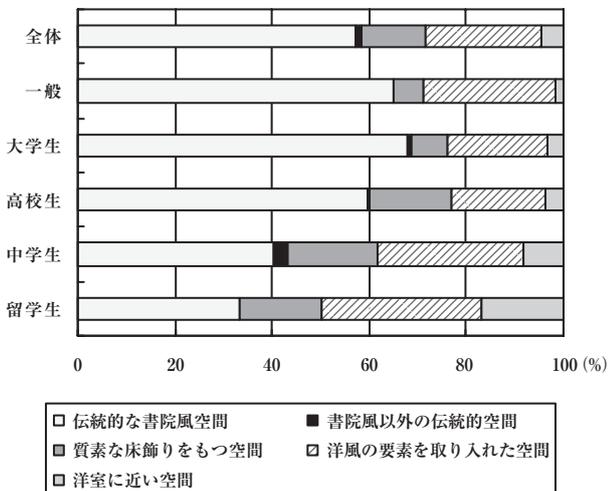


図7 自宅の畳空間に近い空間

② つくりたい空間

つくりたいと思う空間を複数回答で選択してもらった結果を図8に示す。男女別にみると、男性は女性よりも伝統的な書院風の空間や書院風以外の伝統的空間を選ぶ人が多く、一方、女性は洋室に近い空間を高く支持しており、女性の方がより洋風の空間を好む傾向にあった。

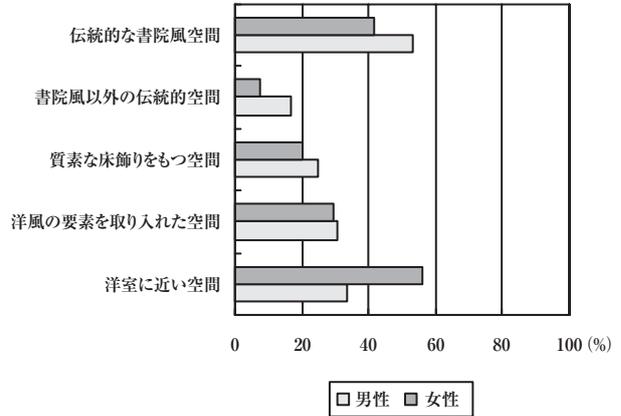


図8 つくりたい畳空間 (男女別)

③ 今後、一般住宅で設置されていくと考える空間

今後も一般住宅で設置されていくと思う空間を複数回答で選択してもらった結果を図9に示す。最も高くあげられたのは、床材は畳だが内部デザインは洋室と変わらない空間で、今後は洋室との相性のよい現代的な空間が採用されていくと感じている人が多いことが伺えた。

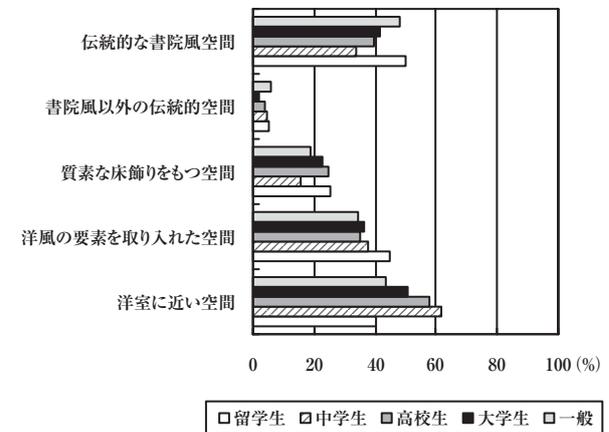


図9 今後、一般住宅で設置されていくと考える畳空間

④ 日本文化として残したい空間

日本文化として残したいと思う空間について複数回答で選択してもらった結果を図10・図11に示す。結果は、伝統的な書院風の空間と書院風以外の伝統的空間の二つに回答が集中した。これは年齢別や男女別にみてもほとんど差がみられず、日本文化としての畳空間のイメージは、世代や性別に関わらず、人々に共通に認識されているものと考えられる。

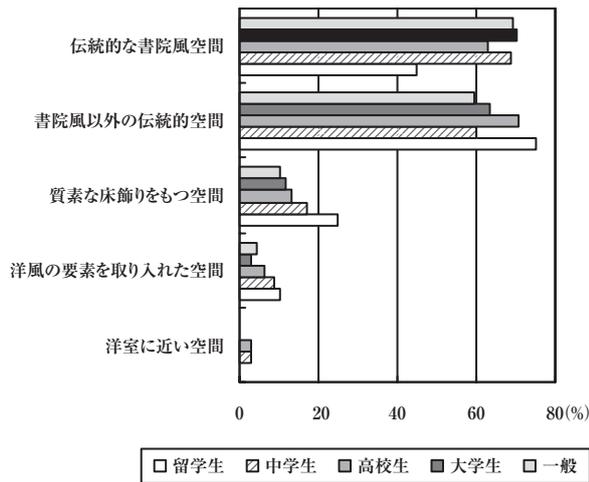


図10 日本文化として残したい畳空間（年齢別）

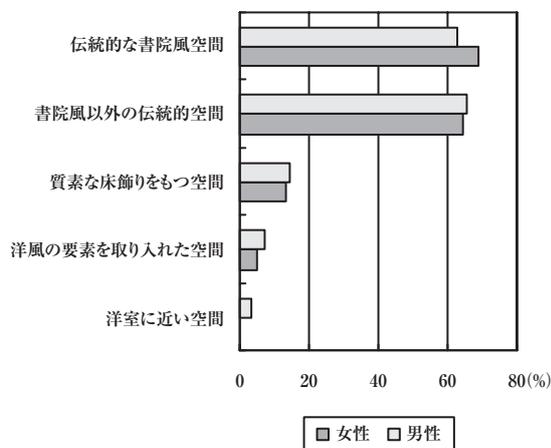


図11 日本文化として残したい畳空間（男女別）

IV. まとめ

畳空間の現状や畳空間に対する意識を知ることにより、より望まれる畳空間を探り、今後の畳空間の発展方向を検討することを目的として調査を行った。得られた結果は下記の通りである。

- ①住宅における畳空間の設置率は高く、利用率も高いが、わずかではあるが畳空間を設置していない住宅もあった。
- ②畳空間は快適性の面で良いイメージがもたれていた。また、幅広い年代で伝統的なイメージがあるも

の、若い世代程、「歴史的建造物」のイメージが強くなっていた。

- ③年齢別にみると、若い世代ほど「嫌い」「つくりたくない」「今後は一般住宅でつくられなくなっていく」と答える割合が高く、畳空間に対する愛着がなく、今後は畳空間を必要と考えない人が増える可能性が考えられた。
- ④畳空間を日本文化として残していきたい人が多いものの、畳空間に愛着のない人ほど、残さなくてよいと考えている割合が高かった。
- ⑤空間デザインとしては、年齢の高い人や男性は伝統的な空間を、若い人や女性は洋室に近い雰囲気空間を好んでいた。

今回の調査結果から、畳空間に対する愛着や要望は未だに強く残っており、今後しばらくは畳空間は存続していくと考えられる。しかし、低い年齢層で畳空間に対する愛着や需要が薄い傾向にあり、畳離れが進行していることが伺えた。

今後は住宅への畳空間の設置率は徐々に減っていき、内部デザインについては伝統的な畳空間は減り、床材は畳でも現代住宅に合わせやすい洋室に近いデザインの空間が増えていくと予想される。また伝統的な空間は、今後は住宅以外の旅館や飲食店などといった場で残っていくものと考えられる。

今回の調査では、特に中学生に関して畳離れが顕著にあらわれる結果となったことから、今後はこの傾向が何の影響によるものか、また成長によって考え方が変化していくのか等を検討することにより、今後の畳空間の方向性を探ることにつながっていくと考えられる。

引用文献

- 1) 中根芳一編著：「生活と住まい」、コロナ社、2002年
- 2) 伊東理恵ほか：「畳空間デザインに対する志向性の検討 —中京圏の注文戸建て住宅における—」、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、p33～34、2001 9月
- 3) 沖田富美子：「家族生活空間としての和室に関する研究」第2報 集合住宅における和室の使われ方と評価、日本家政学会第52回大会 研究発表要旨集、p222、2000 6月

